



オアシス

文責：副学長
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2018年6月11日発行 第2号

6月に入り、いよいよ梅雨の時期となりました。湿度が高くなるので楽器の管理が難しくなります。ジメジメした気候を嫌う人もいます。雨の日ばかりだと気持ちもトーンダウンします。しかし、プラス思考で考えると適度な雨は恵みの雨となり、雨に打たれる紫陽花の美しさは格別です。肌は潤いを増します。私は、シトシトと降る雨を眺めながら、もの思いにふける時間が好きです。傍らで、好きな音楽が流れていれば最高の一時となります。この時期も過ごし方によっては良い季節かも知れません…。

◎ 本音楽院は幼児科からスタートできます！

幼児科は、「音楽入門コース」として、3コース開設しています。3歳児を対象とした【ホップ】コース、4～5歳児を対象とした【ステップ】コース、6歳児を対象とした【ジャンプ】コースです。いずれも保護者同伴で受講していただいておりますが、受講生が音楽を通して楽しく学べるよう、学長をはじめ各コースの講師陣が工夫を凝らしている様子が肌で感じられました。保護者の中には、母親に限らず父親の姿があり、時代とともに子育ての環境に変化がうかがえることを感じさせられました。講座内容は、ホップクラスでは、リズム遊びを中心に、ステップクラスでは、歌を通して楽譜読みに挑戦したりします。そして、ジャンプクラスになると合唱や合奏に取り組むなど、各コースを通じて音楽に関する様々な体験ができる仕組みになっています。幼児科の先には、小学校低学年（音楽入門コース）でさらに発展的な講座を学び、4年生からは本格的な合唱コースやオーケストラコースに進むこととなります。本アカデミーでは、高校3年生の4月まで在籍することができ、その間にはジュニア・コーラスやジュニア・オーケストラの楽員としてコンサートを主催することとなります。

また、本音楽院の母体である「出雲フィルハーモニー」の楽員として参加することもでき、地方都市において、オーケストラ（合唱を含む）が実体験できる音楽院（アカデミー）は全国的に見ても出雲市だけという貴重な組織といえます。

現在、幼児科が取り組んでいる様子を写真で紹介します。

【ホップ】コース



【ステップ】コース



【ジャンプ】コース



◎ 音楽への興味・関心は幼児期から！

音楽が幼児期にとっても良い影響を与えることを解説している著書に数年前出合いました。その感想を以下に述べてみたいと思います。

まず、「最初の習い事なら音楽がベスト」という見出しに興味をもちました。最初の習い事は3歳くらいからで、ピアノをはじめとする楽器がおすすめということ。その時期は特に音感やリズム感が身に付きやすいということもあるそうですが、楽器はそれ以上のパワーを秘めているとのこと。端的に言えば、「賢い子」、「好奇心旺盛な子」に育てるうえで、この時期の楽器は非常に効果的だそうです。

また、「音楽が英語の力を伸ばす」ことにまで言及されています。その理由は、脳の音をつかさどる領域と、言語をつかさどる領域が、非常に近い所にあり、3～4歳児はちょうど言葉の発達時期と重なり、楽器を演奏することで、言葉の領域にもよい刺激がいくと考えられているそうです。音楽を利用して、脳に言葉（英語）を受け入れる準備をさせておくことは英語を学ぶに際して、子どもにストレスをかけない良い方法というのです。

では、「音楽への興味の高め方」は、幼児期の子どもにとってどうすればよいかは、次のように示されています。楽器に興味を示さない場合は、親がまず音を鳴らしてみせることだそうです。ピアノが弾けなくても親が楽しそうに鍵盤を弾いている姿を見せるようにしたところ、狙いどおり親の真似をして鍵盤をたたき始めたというのです。結局、子どもに何かをさせたいのなら、親が自らしてみせるのが一番だということでしょうか…。さらに、親にとっては、音楽に関わることも、脳全体が活性化し、認知症のリスクを下げるのが、最近の研究からわかってきたということだそうです…。

※参考文献：著書～「賢い子に育てる究極のコツ」

著者～東北大学加齢医学研究所教授 “瀧 靖之”氏

このように幼児期から音楽に関わらせることは、今後の人生においても大切な行為であることが理解できるのではないのでしょうか…。

本アカデミーでも幼児科は親子参加が原則です。親子で受講することが子どもにとって最高の環境づくりになっていることに気付かされます。

今回参考にした文献は、子育てにとっても役立つ著書だと思い紹介しました。ここに示したのはほんの一部です。詳細については、皆様も是非手に取ってお読みいただければ幸いです。



木管五重奏



音楽入門



ボーイズクワイア



ジュニアコーラス



コーラス・レパートリー



ストリングアンサンブル



シンフォニーオーケストラ

つぶやき アメリカ大リーグで“大谷翔平”選手の行動が注目されています。投手と打者の二刀流はもちろんですが、打席に入る前の準備をあまりにも入念にしすぎるとのこと…。その訳を聞かれると「本番で100%の力を出すには、200%の準備が必要」と一言。私たちも見習いたいものです…。